



# 富山県立大学ニュース

平成28年3月発行  
富山県立大学学生委員会

No.110

第26回

## 県大祭

「Challenge of the Kendaifes」

10月31日(土)・11月1日(日)



### CONTENTS

- 飛躍する富山県立大学
- 大谷米太郎記念基金事業
- 退職にあたり
- News Digest
- 学生レポート
- INFORMATION など

# 飛躍する富山県立大学

富山県立大学は、本年4月と明年平成29年4月に、学科の拡充、新設を行います。これは、県立の大学として、県内産業等への人材供給と若者の定着に一層貢献することを目的として、入学定員の大幅増員と教育研究分野の充実強化を行うものです。

具体的には、県内産業のニーズを踏まえ、本年4月、機械システム工学科と知能デザイン工学科の入学定員を各50名から60名に増員するとともに、機械システム工学科については複合材料（高分子材料）などの分野、知能デザイン工学科についてはロボット関連分野を充実強化します。

また明年4月には、情報システム工学科の入学定員を50名から80名、環境工学科の入学定員を40名から55名に増員するとともに、情報システム工学科については電気・電子、IoT・ビッグデータ分野、環境工学科については防災、まちづくり等の社会基盤系分野を充実強化します。併せて、教育研究の内容を学科名で分かりやすく示すため、学科名称を「電子・情報工学科」、「環境・社会基盤工学科」に変更します。

さらに、本県の主要産業である医薬品産業及び関連産業を支える人材の養成確保に寄与するため、生物工学科の実績をもとに工学の観点から医薬品の製造・開発に関する教育研究を行う「医薬品工学科」（入学定員35名）を新設します。

今回の工学部の学科拡充・新設に伴い、教員の増員や新校舎の建設等キャンパスの整備を行うとともに、質の高い看護職員の人材確保と若者の県内定着のため、「看護学部」の開設に向けて準備を進め、地方創生の一翼を担う魅力ある大学づくりを推進してまいります。

## 大谷米太郎記念基金事業による大学院修学奨学金の支給について

本学では、本年度から大谷米太郎記念基金事業を開始し、大学院修学奨学金を支給することといたしました。

大谷米太郎翁は、本学の前身である県立大谷技術短期大学の開学に多大なご貢献をなされた方（故人）ですが、翁が出捐・設立した工学振興を目的とする財団法人が近年解散となり、その残余財産が県を経由して本学に譲与されました。大谷米太郎記念基金事業は、翁やご子孫の願いを踏まえ、この財産を活用して優秀な人材を育てるための支援を行なうものです。

この基金事業を運営するため学内外の委員で構成する委員会を設けて協議したところ、本学を優秀な成績で卒業し、引き続いて本学大学院の博士前期課程に進学した1年次生に対し、修学を支援するため奨学金を支給することとしました。

本年度は、5名の大学院生に対し、年額授業料の半額に相当する奨学金を支給することを決定し、1月29日に寺井理事長から支給通知書を交付しました（写真）。石塚学長からは、「奨学生に選ばれたことを誇りに思い、一層勉学に励むよう」激励の言葉がありました。

来年度以降も、学生の皆さんに勉学の励みとなるよう、基金事業による支援を続けてまいります。



## 「商店街ハッカソン in 富山」

※ハッカソンとは、さまざまな手法で外部のアイデアを取り込み、新しい発想を得ようとするオープンイノベーション手法

最優秀賞：情報システム工学科4年 高松将也（学外2名のグループ）

商店街賞：情報システム工学科4年 伊達伸之輔

3年 赤瀬涼太（学外1名のグループ）

i-LOP賞：情報システム工学科3年 稲葉航太（学外3名のグループ）

<最優秀賞：高松さんのコメント>

僕らのチームでは、商店街をRPGの世界に見立てて、子供から大人まで商店街をゲーム感覚で楽しめるようなアプリケーションを開発しました。また、店主さんたちをユニークなキャラクターとして表現しました。

開発段階では、チームのメンバーで夜通し頭を悩ませながらアイデアを膨らませ、開発に取り組んだ3日間にわたる長丁場で、体力的にはとても消耗しましたが、チームで何かを作りあげることの楽しさを味わうことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。またこのようなまちづくりに関わる機会があれば、是非参加したいです。





## 「退職にあたり」

知能デザイン工学科 教授 野村 俊

退職にあたり、これまでの思い出とお礼を述べたいと思います。

私が富山大学工学部の修士課程を修了するころ、本学の前身である県立技術短大では機械工学科の計測分野の教員を募集していました。私の指導教員であった吉川和男先生からお声を掛けていただきましたが、自宅の近くにある県内の企業に就職しました。当時その企業は世界進出を拡大しており、勤務時間が長くほとんど休日の無い毎日をご過ごしておりました。その企業に就職した理由は、勤務先が自宅近くであり、山菜取りや釣りに行けるからというものでしたから、それができないのであれば・・・ということで、1年で退職し、吉川先生のお勧めもあり、1976年4月に県立技術短大にお世話になることにしました。

赴任当時、技術短大を将来4年制にするという計画があり、学長から早急に学位を取得することを求められました。光応用計測の研究をしておりましたが、年間9万円の研究費でしかも設備も無いことから、当時高岡にあった富山大学工学部に行って、夜間実験をさせていただきました。さらに、学外研修で、理化学研究所と東京工業大学にお世話になりました。お蔭様で東京工業大学から工学博士の称号が与えられ、1990年4月、本学機械システム工学科機械力学・機構学講座の助教授に着任することができました。当時の講座の教授は宮代裕先生で、流体分野の専門の方でしたが、研究の仕方を厳しく指導していただきました。また、神谷和秀氏を助手として採用し、計測部門ということから、他大学や企業からの依頼による共同研究を多く行いました。さらに学会の技術専門委員会に参加し、多くの大学や企業の方々とは知り合うことができ、卒業研究や特別研究でこれらの研究の指導を通して学生の成長を目の当たりにすることができました。

教育と研究のみならず、大学運営でも多くの教員や事務職員のご指導とご協力をいただき、40年間の幸せな教員生活を送ることができました。ここに深く感謝申し上げますとともに富山県立大学の益々の発展を祈念してお礼の挨拶とさせていただきます。



## 「退職にさいして」

機械システム工学科 准教授 屋代 春樹

30有余年、一民間企業で「自分以外は皆先生」「人畜無害」をモットーに働いてきた者が9年半に渡り無事「先生」を務めることができましたことは学生、教・職員の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。大学を去るにあたって、学生にとっては意に反して「有害」な教員だったのではなかったらうかと初めて懸念しております。

企業人だった頃、特許が製品の一部に採用されると、喜びよりもクレームやリコールを心配しました。工業製品は極力ばらつきを減らすので一度不具合が出ると、ばらつきが原因でないならば極論ではありますが同じ製品からは同じ不具合がほぼ100%出ます。真剣勝負でした。学生を製品に喩えるのは甚だ不適切ではありますが、大学の製品には工業製品とは違って意思があります。製作過程で製品自体が意思を持って製作者の意図にかかわらず自ら好き勝手に製品を造り上げていきます。このことに慣れるのに3、4年かかりました。大学の製品はまた社会に出てからも変化し、その成長を見て驚かされたことすらあります。教育という仕事に携われたことに深く感謝した次第であります。返品がないので気が楽でもありました。

閑話休題。カタールvs F・マリノス@日産スタジアムでお会いできるのを楽しみにしております。願わくはJ1リーグ戦として。

今後は大学外にあって富山県立大学の発展を応援していく所存であります。最後になりましたが教・職員の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

退職にあたり



## 富山県機電工業会による特別講義

平成27年度後期授業として、一般社団法人富山県機電工業会による特別講義「知能デザイン工学特別講義2」を開講しました。

ものづくりの第一線で活躍している企業の技術者等を講師に迎え、受講した学生は、企業で働く技術者の想い・知識・スキルなどに触れるとともに、技術者の心構え・理論の学び方等を知ることができ、アルミ、工作機械、電気・電子回路、情報処理の分野など、富山県のものづくり産業への理解を深めました。

平成27年10月2日(金)に行われた第1回講義では、富山県機電工業会の大谷 渡 会長（YKK副社長）が講師を務め、富山県のものづくりの特徴や強みなど、ものづくりの魅力を学生に伝えていただき、貴重な授業となりました。

## 平成27年度 富山県立大学環境講演会

10月22日(木)アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。

この講演会は、環境問題に対する知識や問題意識を学ぶことを目的として、環境分野の第一人者をお招きするもので、学内外から幅広く聴講者を募り実施しました。

今年度は、「クワガタムシが語る生物多様性」という演題で、国立環境研究所 五箇 公一氏に講演いただきました。

講演会では、生物多様性を脅かしている要因の一つである外来種の侵入についてアライグマやクワガタムシを例にユーモア溢れるパワーポイントを用いて講演いただき、総勢211名が熱心に講演内容に聞き入っていました。



## 田中南砺市長が本学で特別講義

平成27年10月23日(金)、本学大講義室において、田中南砺市長による特別講義がありました。今回の南砺市長による特別講義は、2年次生を対象とするトピックゼミの一環として開講しました。

当日は、「地方創生とまちづくり」と題し、田中市長から、南砺市の抱える様々な地域課題の内容やその課題解決に向けた行政の取組み、南砺市と様々な行政機関や企業との連携、今後の南砺市の将来像などについて説明がありました。

受講した約130名の学生は、自治体トップから直接、南砺市の魅力や自治体行政について聞くことができ、理解が深まりました。

## 「Challenge of the Kendaifes」第26回県大祭 開催!!

10月31日(土)、11月1日(日)に学生が中心となって行う最も大きなイベント「第26回県大祭」が開催されました。

「Challenge of the Kendaifes」をテーマに、サークルによる演奏発表やバラエティに富んだ模擬店、ハロウィーンの仮装など、思い思いに楽しんでいました。

また、10月31日(土)には「ぶらっくすわん」のダンスステージ、11月1日(日)には、「我が家」、「クマムシ」、「平野ノラ」、「雷鳥」の4組によるお笑いライブが開催され、会場のメインステージ周辺は大きな賑わいに包まれました。

学生はもちろん、地域の方々や子どもたちなど、大勢のご来場をいただき、2日間の日程を無事終えることができました。



## 富山県立大学第14回FD研修会

11月2日(月)、本学において、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことで、平成14年度から毎年1回開催しており、今回で14回目となりました。

今年度は、最近の学生事情について外部講師を招いてご講演いただいたほか、本学での教育改善に向けた方策やCOCの取組み等について、各教員から発表していただきました。

研修会後に行ったアンケートでは、「授業改善チームの取組み」や「学生生活実態調査の分析」などの取組みが参考になったとの意見が多く得られました。

## 富山県立大学秋季公開講座

11月7日(土)、14日(土)、21日(土)、28日(土)の4日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、生物工学科の教員等が講師となり、「医薬品産業を支える生物工学」をテーマとして講義を行いました。成長著しい本県医薬品産業の根底にある生物工学について、本学教員の教育・研究の成果を広く皆様に知っていただく貴重な機会となりました。

県内各地から延べ626名が参加され、皆さん熱心に講義を聴いておられました。



## 中国瀋陽化工大学学長が富山県立大学を訪問

平成27年11月19日(木)、本学と学術交流協定を結んでいる瀋陽化工大学から、平成26年12月に就任した李 志義 学長をはじめとする6名が本学を訪問しました。

石塚学長を表敬訪問したほか、関係者と意見交換を行い、本学に在学している瀋陽化工大学出身の留学生、指導教員と交流しました。

本学と瀋陽化工大学は平成23年度から学生の交換留学を行っており、今年で6年目を迎えました。瀋陽化工大学からこれまでに延べ13名の学生を受入れ、本学からも46名の学生を派遣してきました。

両大学の交流がますます深まることを願っています。

## とやま産学官金交流会2015

県内の企業、大学、研究機関の関係者が一堂に会し交流を深める「とやま産学官金交流会2015」が11月25日(水)に富山国際会議場で開催されました。

今年は「富山の未来を支える現場力」をテーマに基調講演、ポスターセッションなどが行われ、会場は多くの参加者で賑わいました。

「とやまのプロジェクトX」では、福祉車両用スロープを開発したアイシン軽金属と航空機産業へ進出する石金精機がそれぞれ事例発表を行いました。基調講演では、デンソーの山口眞介常務役員が「日本のモノづくりの勝ち残りを目指したデンソーモノづくりの進化」と題して講演しました。また、ポスターセッションには本学から26の出展があり、本学の研究成果について活発な意見交換が行われました。



## 平成27年度 次世代環境産業シンポジウム

11月27日(金)ゴルフファートとやまにおいて、「次世代環境産業シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、富山県と共催で取り組み、資源循環社会づくりに向け、製造業者、廃棄物処理業者、大学、行政の関係者がそれぞれの役割について共に考え、連携・協働するきっかけづくりを目的に開催しました。

当日は、基調講演として慶應義塾大学経済学部 教授 細田 衛士 氏に「日本の資源循環の展望について」と題して講演をいただきました。また、先進事例紹介やパネルディスカッションを通して、日本の資源循環の課題や問題点にどのような道筋・戦略で取り組むかについて紹介、議論いただき、またワークショップでは、各主体の目指すべき姿についてどのような連携が必要かについて議論を深めました。

## 留学生交流会の実施

平成27年12月18日に、本学初の試みとなる「留学生交流会」を開催しました。この交流会は、本学の留学生が、これまであまり関わったことのない他の留学生と交流することで日本での学生生活における有益な情報交換や相互理解を深めたり、また、日本人学生が留学生と交流することで、語学力を活用したり、国際理解や知識を広げる機会を提供したりすることを目的としています。

参加者は総勢30名にのぼり、それぞれ食事を楽しみながらお互いの国の文化や学生生活などについて談笑して過ごしました。事後アンケートでは、「日本人学生と知り合えて嬉しかった」「もっと英語を勉強したくなった」などの感想が寄せられ、それぞれ充実した時間を過ごすことができたようでした。



## 平成27年度後期 地域協働授業成果発表会

「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」の取り組みとして実施している「地域協働授業」での成果を広く知っていただくため、1月28日(木)、29日(金)に本学にて「地域協働授業成果発表会」を開催しました。2年生のトピックゼミ、3年生の専門ゼミ等計17グループが発表し、学生、教員、地域関係者等約300名が参加しました。「近代化遺産・富岩運河について」や「小矢部市における観光客増を目指した課題把握の取り組み」など、地域の方と協働して学んだ成果について動画なども見せながら発表しました。また、今回は新たな試みとして、発表中に参加者からツイッターで質問や意見を受け付けました。授業を通じて学修したことや地域の様々な課題などを全体で共有するよい機会となりました。

## 本学教員等の受賞について

### 環境工学科 伊藤 始准教授



第24回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム 優秀講演賞 H27.10.23受賞  
受賞論文 「フライアッシュを添加したPCスラブの初期応力挙動に関する検討」の論文発表  
<研究の概要等>

ダムやスラブ等の体積の大きいコンクリート構造物では、その耐久性能や構造性能に影響を与えないように、温度応力によるひび割れを抑制することが重要であります。本研究は、長さ25mの大型PCスラブの現場計測と温度応力解析を実施することで、フライアッシュ添加によるコンクリートの発熱量抑制効果とプレストレス導入による応力低減効果を明らかにしました。なお、本研究は内閣府・戦略的イノベーション創造プログラムSIPの一環で金沢大学と共同で実施しました。

### 教養教育 古澤 之裕講師



日本ソノケミストリー学会 論文賞 H27.10.24受賞  
受賞論文 「Effects of therapeutic ultrasound on the nucleus and genomic DNA.」  
(Ultrason Sonochem. 2014, 21:2061-8. doi: 10.1016/j.ultsonch. 2014. 02. 28)  
<研究の概要等>

ソノケミストリーは、一定強度の超音波により形成される気泡が崩壊する際に生じる反応場での化学を指します。低強度超音波は産婦人科領域における安全な診断手法、高強度超音波は前立腺がんの焼灼治療に用いられており、超音波は今日の医療に欠かせないものとなっています。受賞者は、超音波が癌細胞を殺傷する際に、DNA損傷で最も重篤とされる二本鎖切断を誘導することを初めて報告しました。本論文賞は、Ultrasonics Sonochemistry誌等学術誌に掲載された前年印刷の学術論文の内、優秀な論文の著者を表彰するものであります。

### 知能デザイン工学科 本吉達郎助教、増田寛之講師、小柳健一准教授、大島徹教授、他1名(学外)

2015年計測自動制御学会システム・情報部門  
SSI Best Research Award H27.11.20受賞  
受賞論文 「タンジブルなツールを用いたプログラミング操作の形式概念分析」  
<研究の概要等>



ブロックを並べることでプログラムを作成できるP-CUBEの開発に取り組んでいます。プログラミングにおいてP-CUBEを使う場合と従来のキーボード入力型ソフトウェアを使用する場合に分け、Formal concept analysisという手法を用いて操作プロセスの構造分析を行いました。P-CUBEの「並べる」プログラミング操作には、プログラム構造に対応する論理的な帰結関係が存在することが示されました。

## 本学学生等の受賞について

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
繆 宇峰	Erato研究員	Biotans Poster Award および Speed Talk	2015年8月	教授 浅野 泰久
高橋沙和子 高柳 綾奈	生物工学科4年	北陸合同バイオシンポジウム ポスター優秀賞	2015年10月	教授 西田 洋巳
高平 梨可	生物工学専攻博士 前期課程1年	第20回JSoFF (ICoFF2015) Young Investigator Award	2015年11月	教授 榊 利之 准教授 生城 真一
小島 大輝	知能デザイン工学専攻 前期課程2年	平成27年度電気関係学会北陸支部連合大会 優秀論文発表賞	2015年11月	教授 平原 達也
大垣 海	知能デザイン工学科4年	日本知能情報ファジィ学会 第24回北信越シンポジウム奨励賞	2015年11月	教授 高木 昇
大多尾友紀	機械システム工学専攻 前期課程2年	2015年度精密工学会北陸支部学術講演会ベストプレゼン テーション賞	2015年11月	講師 宮島 敏郎
中川 恵美 稲葉 美央 高田 智樹	情報システム工学科4年	北陸情報通信協議会主催 北陸総合通信局 G空間×ICT街づくりトライアルコンクール	2015年11月	教授 鳥山 朋二
鉄村 直樹	知能デザイン工学科4年	SSI2015 部門研究奨励賞	2015年11月	教授 大島 徹
小島 大輝	知能デザイン工学専攻 前期課程2年	日本音響学会 電気音響研究会 学生研究奨励賞	2015年12月	教授 平原 達也
森田 悠生	知能デザイン工学専攻 前期課程1年	平成27年度日本生体医工学会北陸支部 優秀論文発表賞	2015年12月	准教授 高野 博史
納所 泰華	機械システム工学科4年	ものづくりinとやま 奨励賞	2016年2月	准教授 真田 和昭

私は、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」の1期生として、2014年10月から1年間、世界最先端の花文化を学ぶことを目標にオランダに留学させていただきました。留学中は、Wageningen Universityで行われたショートプログラムへの参加、世界最大の花市場 Flora Hollandに事務所を構えるOsco Gardenでのインターンシップ、Yamato Transport Europe 本社での物流研修インターンシップを主なプランとして活動しました。また、休日にはヨーロッパの様々なところを見て回り、それぞれの国の違いを肌で感じることができました。特にクリスマスの時期に各国で開催されていたクリスマスマーケットは印象的です。



留学は、家探し、ビザの取得、住民登録、口座開設など現地での生活の基盤を整えることから始まりました。入国直後は右も左もわからない状態で、目的地と逆方向に進むバスに乗ってしまったこともありましたが、今となってはそれらの経験がすべて私のかけがえのない財産です。このように、海外で生活するということが自分から多く学びがあり、想像以上に留学という経験を最大化することができたと考えています。

本大学でも、瀋陽化工大学への交換留学や、PSU語学研修など、留学の扉は開かれています。是非ためらわずチャレンジしてみてください。

## INFORMATION

### 富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

#### ～平成28年度前期受講生募集～

本学では、地域の皆さんに正規の授業を公開する県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)を実施しています。4月から開始する前期授業においても、教養教育科目、機械・電子系専門科目、バイオテクノロジーや環境工学に関する専門科目など約100科目のバラエティに富んだ授業を公開します。

公開科目の中からニーズにあった講義を選んでいただくため、実際の授業を試聴いただいた上で受講科目を決定することができます。皆様のお申込みをお待ちしています。

**開講予定科目** 一般教養科目から各種専門科目まで、バラエティに富んだ授業を公開します！

#### 一般教養科目

社会学Ⅰ、物理学Ⅰ、数学Ⅰ など

#### 工学部専門科目(機械・知能・情報・生物・環境)

工業力学、メカトロニクス概論、ソフトウェア基礎、生命科学史、環境論Ⅰ など

#### スケジュール

募集期間 平成28年3月17日(木)～4月1日(金)

試聴期間 平成28年4月11日(月)～4月22日(金)

授業期間 平成28年4月11日(月)～8月12日(金)

**受講料** 1科目5,000円(複数科目の受講可)

#### 申込方法

「受講希望調書」を地域連携センター受講生窓口にて持参、郵送、FAX又は電子メールでお申込みください。受講希望調書、科目、スケジュール等はホームページに掲載します。詳しくは下記大学ホームページにてご確認ください。(3月下旬掲載予定)

<http://www.pu-toyama.ac.jp/local/2015/09/16/869/>

#### ○募集要項請求先・問合せ先

富山県立大学地域連携センター(受講生窓口)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL: 0766-56-0604 FAX: 0766-56-0391

E-mail: [openuniv@pu-toyama.ac.jp](mailto:openuniv@pu-toyama.ac.jp)

URL: <http://www.pu-toyama.ac.jp/local/2015/09/16/869/>

## 学位記授与式

平成27年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。

また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

#### 【授与式】

◆日時: 平成28年3月20日(日・祝) 午前10時～

◆会場: アイザック小杉文化ホール ラポール(射水市戸破1500番地)

#### 【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時: 平成28年3月20日(日・祝) 午後0時30分(予定)～

◆会場: 本学大谷講堂

# SCHEDULE

## 平成27～28年度

	大 学 院	工 学 部
3(木)～4(金) 学内合同企業説明会 スキー講習会 20(日) 学位記授与式	3月	8(火) 一般入試(前期日程) 合格発表 23(水) 一般入試(後期日程) 合格発表
6(水) 入学式	4月	6(水)～8(金) オリエンテーション 6(水)～8(金) 学生定期健康診断 11(月) 前期授業開始
27(金) 学生球技大会	5月	

## CAMPUS NOTE

### アウトドアサークル



アウトドアサークルは、去年の春に活動を始めたばかりの新しいサークルです。大谷講堂で毎週水曜日17時～身体を動かしたり、春にはお花見、夏には海でバーベキュー、冬にはスノーボードをしたりと、一年中四季折々のイベントを楽しもうというサークルです。その他にも定期的にみんなで出かけたり旅行したり、思い立ったら活動する、そんな感じのサークルです。このサークルのいいところはとにかくゆるーいところ。活動は全て自由参加でみんな来たいときに来て、集まったメンバーでワイワイやっています。こんな感じのサークルだからほかにサークルには所属しているけど、ついでに…って部員も結構多いです。笑 変わりばえのない生活に飽き飽きしている人、人生もっと楽しみたい人、アウトドアサークルに入ればきっと友達の輪が広がって楽しい大学生活が送れますよ！サークル員一同楽しい企画を用意して、あなたの入部をお待ちしています。

(部長 情報システム工学科2年 林大貴)

### 編集後記

富山ではよく「きときと」という言葉を使う。「きときと」とは極めて生き生きとしていて新鮮ということ。富山の冬の「きときと」な魚といえばなんといっても「氷見寒ブリ」が挙げられるだろう。ブリは縁起のよい出世魚で、大きくなるにつれて呼び名が変わり、地域にもよるようだが、富山ではツバイソ→コズクラ→フクラギ→ガンドブリ→ブリと大きくなるにつれて呼び名が変わる。「氷見寒ブリ」は富山湾の定置網で捕獲され、氷見漁港で競られた6kg以上のブリのことだそうである。船上ですぐ氷水に投入して活けメにして鮮度と品質を高めることが他の地域とは処理方法が異なっており大切なだと聞いている。お正月に実家に帰ってきた子が、寒ブリを食べたいということで、元旦に氷見に出かけたが店はお休みで手に入らない。諦めずに2日の日に、射水市内の自宅近くのお店を数件探しまくって、ようやく手に入れることができた。孟子曰く「求則得之、舎則失之」。求める意志があれば得ることができるが、その意志を捨てれば得ることができない。孟子の譬えのようなお正月であった。人はともすればすぐに諦めてしまう事も多い。本号で記載の大谷米太郎氏に習って、「求則得之、舎則失之」、九転十起の心意気で粘り強く頑張っていきたいものである。

ところで、今年はエルニーニョ現象で暖冬になり雪が少ないとの予報であった。お正月に近くの神社に初詣に出かけたが、雪は無かった。このエルニーニョ現象、太平洋の赤道中央付近から南米のペルー沿岸にかけての海面水温が平年より高くなる現象で、数年に一度起き、半年から1年半ほど続くとのことである。一月中旬の大学入試センター試験時にも雪はほとんど無く、大学受験生には幸いであった。しかし、大学入試センター試験の翌日からは、今年最初の大雪と寒波に見舞われ、一晩に30cm程の雪が積もった。北陸近辺では、これを「ドカ雪」、冬将軍が到来したと言っている。だいたい、1週間に一回程度の割合で2月中旬頃までこの「ドカ雪」の訪問がある。エルニーニョ現象といっても、油断大敵、安心してはいられない。昨年3月に開業した北陸新幹線、「備えあれば憂いなし」雪に対する対策は万全で、他の新幹線とは異なり冬将軍による影響は見られず順調な運行で、乗客も従来の3倍以上をキープしているとのことである。

(学生部長 中村 清実)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。